

釧路新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

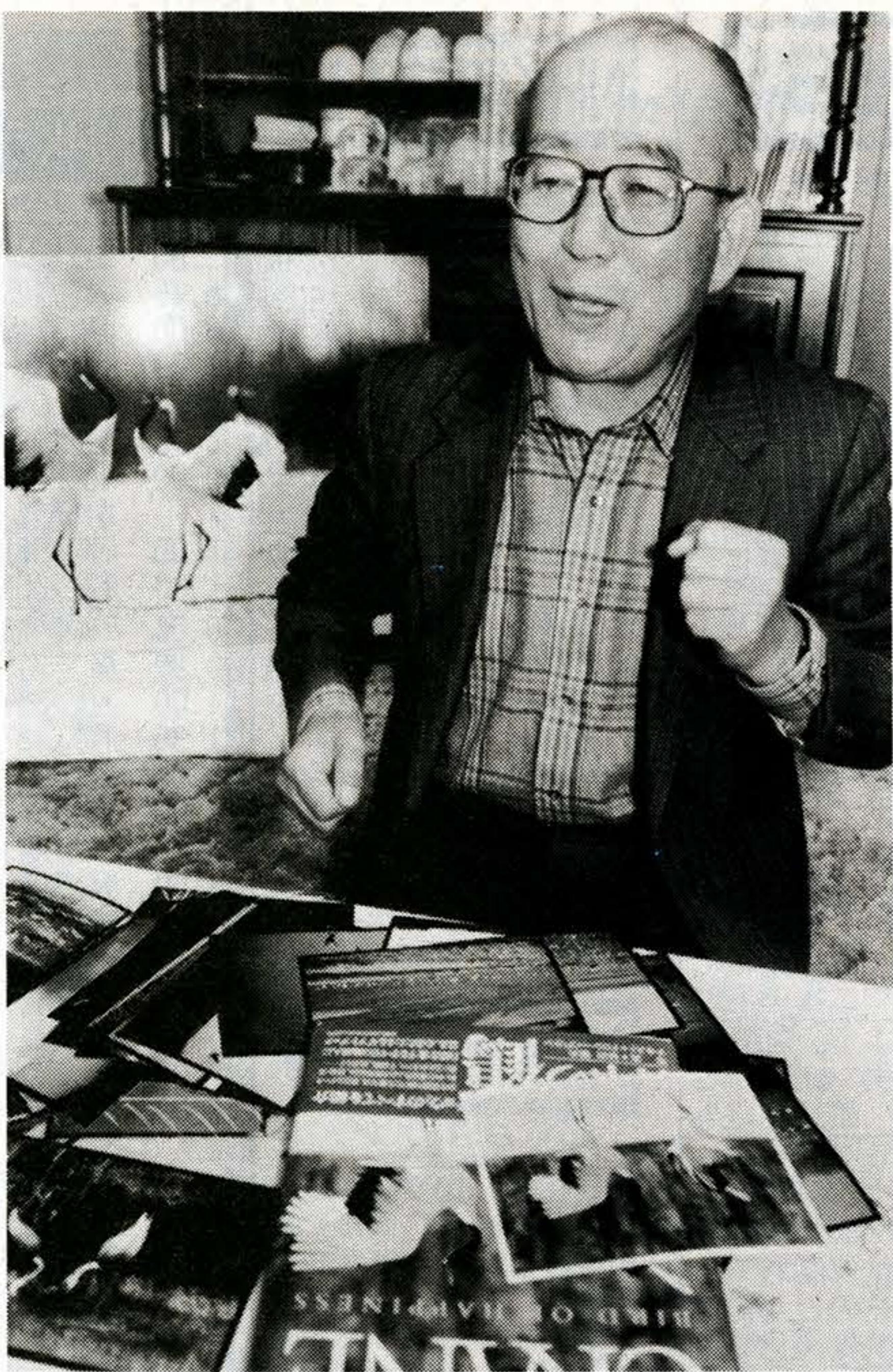
■中■

夕日を受けてダンスを舞うタンチョウの美しさを

に魅了され、それを写し撮るために始めたカメラ

がライフワークとなり、アマチュアのまま、三十

数年をかけて世界中のほとんどのツルをレンズに



英語版「日本の鶴」の表紙に使われた作品

とらえてきた。「ところが、最初に受けた感動、あの時のイメージの写真がいまだに撮れないので」と苦笑する。

3都市で集大成の写真展

昭和三十七年からタン

リカ、カナダ、北朝鮮、中国、インドなど八カ国を踏破し、今年初めてアフリカでホオジロカンムリツルを撮影、世界で十五種のツルのうち十二種の撮影を達成した。現在の千円札の図柄に同氏のタンチョウが使われ、本「鶴」など十冊を超え、今年還暦を記念して、これまでの集大成というべき個展を東京、大阪、釧路で開催した。

南アの3種で目標達成

世界のすべてのツルを

は三十数年かけたが、それには負けない作品になると思う」と自負している。

ツルに導かれるように世界を駆け巡ったが「タンチョウとほかのツルを比較してみたいというのが動機だった。タンチョウより色彩が美しい種はいた。しかし、雪の湿原で舞い踊るタンチョウが最も美しい。結局それが結論でした」と笑う。

ツルの撮影に情熱

世界の15種を追う

チヨウを撮りはじめ、五十四年から世界のツルの撮影に取り組んだ。アメ

はばたけ」や英語版「日

写真真

林田 恒夫氏(六〇)

(写真家、釧路市旭町23の4)

撮ることが目標で、残りの三種は南アフリカにいる。あと二〜三年の内には達成するつもりだ。それを機に世界の鶴として写真集を出版するが「過去に一人、スウェーデン人が、わずか三年の撮影期間で出版している。私

今回の受賞について「いろいろな賞をいただいたが、私にとって地元で評価されることが一番嬉しい。今回の受賞は思いがけないが、心から喜んでい」と語っている。